http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.225　03/06/24

マネブ

当然のことながらこの号の話題は合唱祭になるはずであったが、先週の火曜日に叔父が亡くなり、そのお通夜が木曜日、告別式が金曜日ということで、日比谷に来て10年目にしてはじめて合唱祭を欠席することとなった。25Rの練習の成果が確かめられなかったことをはじめとして、２年生全体の出来や、３年生の熱唱が聞けなかったのは心残りである。仮設校舎になって、国語科職員室が生徒諸君の教室から離れてしまい、朝や放課後の歌声があまり聞こえなくなってしまったために、せめて本番だけでも各クラスの様子を見てやろうと楽しみにしていたから、余計に残念である。ありがたいお経を聞きながらも、「きっと今ごろ…」と時計をチラチラ見ていたりしたのだが、まあ、この年齢ともなると我が儘ばかりは言っていられないのである。

＊

そういうわけで、25Rも最終的にどれくらい仕上がったのか分からない。星陵祭もセンター試験も？そうなのだが、なにせ君たちは本番の直前まで力が伸びるわけだから、私が聞いた最後の練習である水曜日の放課後（音楽室）よりも、さらにレベルアップした歌唱が本番で見られた（聞かれた）に違いない。

しかし、あの水曜日の放課後、合唱部の先輩にちょっとアドバイスしてもらっただけで、歌の方は見違えるほど（聞き違えるほど？）よくなったのには驚いた。先輩のアドバイスもよかったのかも知れないが、それをちゃんと実際の歌唱に生かせる君たちの能力もなかなかたいしたモノである。

学力が高い君たちは、やはりマネが上手なのだと思う。ご存じの通り、「学ぶ」という言葉は、「真似ぶ」という言葉と語源が同じである。『日本語源大辞典』（小学館）によれば、「マナブは漢文訓読文、マネブは和文にそれぞれ多く用いられており、性差や位相差も考えられるが、マネブの使用例の多くは口まねする、あるできごとをその通りに模倣するの意で、教えを受ける・学問するといった意味合いはマナブにくらべるとずっと少ない。そのため模倣を意味するマネルが広く用いられるようになると、マネブは口頭語から退いてマナブの雅語のように意識されるに至る。」と解説されている。

＊

ここで説教くさくなるわけだが（笑）、つまり勉強（学ぶこと）は、人のいうことをしっかり受け取り、それをきっちり真似することで力がついていくのである。合唱の際に見せたマネブ力は、そのまま君たちのマナブ力なのであり、それをこれからの授業の中でもしっかり生かしていくことが大切だろう。

そのためには、先ず、マネブ態勢とつくることである。あの練習の時に見せたような真剣な態度で相手の話を聞くこと、つまり、しっかり授業を聞くことが第一歩である。

忙しい日々が続くが、その中でもしっかりと勉強を自分の生活の中に位置づけ、着実に実力をつけていきたい。そのスタート地点にあるもの、それが授業なのである。